

幼稚園における道徳教育

実践事例 「協同的な活動を通して思いやりの心をはぐくむ」

～5年生との交流を通して～

園名 野田市立関宿中部幼稚園 指導者名 内田 光恵

1 学習指導案

関宿中部幼稚園年長組 指導案

平成29年10月26日(木) 10時00分～11時30分

(1) 主題名

「協同的な活動を通して思いやりの心をはぐくむ」
～5年生との交流を通して～

○を2行分削除

(2) ねらい

5年生と目的を共有し、話し合いながら一緒に遊びを進めていくことを楽しむ。
5年生の優しさに触れながら、いろいろな課題に挑戦し、やり遂げた喜びや達成感を味わう。

(3) 主題設定の理由


本園ではめざす幼児の姿に「元気に仲よく遊ぶ子」を掲げ、様々な人とかかわる体験や、幼児同士が互いに影響し合う経験を繰り返し行うことで、幼児自身が集団の中のかげがえのない一員であることを知り、仲間への信頼感をもつことができるようになることをめざしている。

本園は、核家族化の進行や地域社会の変化に伴い、園児数が減少傾向にある。また、近くに遊び場がなかったり、家同士が離れていて近所に遊ぶ友達がいなかったりといった状況から友達同士のかかわりが希薄化傾向にある。しかし、本園は二川小学校と隣り合わせであるため、幼小連携・接続を踏まえた様々な交流活動を積極的に行える環境にある。「人とかかわる力」を身に付けていく機会が少なくなる現状の中、幼児にとって幼稚園だけでは経験できない多くの学びや感情体験を協同的な活動の中で育むことができるのではないかと考え、交流活動を設定した。

さらに、幼児が5年生と一緒に活動していく中で、優しく教えてもらったり、手助けしてもらったりしながら、協同的な活動を進めていくことの喜びや心地よさを味わう経験をしていくことは、幼児自身も自分の視点からでなく、相手の立場に立って物事を捉えるという思いやりの気持ちを育むことに繋がっていくと考えた。今後も一人一人がその子らしく遊ぶ中で、生き生きとした人間関係が育つことを願い、本主題を設定した。

(4) 交流活動当日までの流れ(幼児の活動)

<交流計画>

交流	月日	ねらい	活動内容	幼児の姿
一緒に遊ぼう	1 5/10	・小学校の様子を知り、5年生に親しみをもつ。	・小学校へ散歩に行き校庭で一緒に遊ぶ。 ・一緒に遊んで欲しい気持ちを伝える。	・小学校に興味を示し、遊びに行った時に「いっしょにあそんでください。」の手紙を渡した。 
	2 6/2	・5年生と一緒に遊ぶことに期待をもつ。	・小学校の校庭で遊ぶ。	・5年生とペアになり、ほとんどの幼児が遊びたい遊具で一緒に遊んでいた。

幅調節

	3	6/5		<ul style="list-style-type: none"> 遊具等で一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを伝えられない幼児も5年生と一緒に過ごす経験を繰り返すことで笑顔が見られ、活発に遊ぶようになった。 	
	4	6/8	<ul style="list-style-type: none"> 5年生に自分たちの遊びを知らせ、一緒に遊ぶ楽しさを感じ満足感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊びを知り、5年生も参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生が仲介役になり話をまとめたり、新しいアイデアを提供してもらったりして新たな刺激を受けることができ、さらに遊びの目的がはっきりしていき、満足感が味わえた。 	
	5	6/12				
	6	6/19	<ul style="list-style-type: none"> 5年生と繋がりを感じながら一緒に遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園で一緒に体操や水遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生に対して緊張感は感じられず、「たくさん水かけたら逃げて行っちゃった。」「お兄さん逃げるの早いんだよ!」と一緒に遊んだ満足感を味わうことができた。 	
	がんばれ運動会	7	9/12	<ul style="list-style-type: none"> 5年生に教えてもらうことに安心感を持ち、意欲的に活動に取り組むようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会練習での交流。(速く走るコツやリレーの方法を教えてもらう。) 最後にロックソールランを一緒に踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「『腕を振るのが上手だね。』と言われて嬉しかった。」「『走るの速くなったよ。』と褒めてくれた。」など自分を認めてくれる言葉をかけてもらえたことが嬉しかったようである。
		 				
冒険(っ)	8	10/4	<ul style="list-style-type: none"> 友達や5年生との繋がりを感じながら思いを出し合い、イメージを広げていくようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 冒険する場所は、どんなところなのか、どんなコースにするか話し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 届かないところや切ることが難しい場面、5年生が優しく助けてくれる経験をし、さらに親しみを感じられた。 	
	 					
	9	10/24	<ul style="list-style-type: none"> 友達や5年生と共通の目的を持ち、一緒に活動する喜びを味わうようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際にコースを作っていく。 他のグループに自分たちの冒険コースを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生がリードして話を進めてくれることやアイデアが豊富なことで「お兄さんと一緒だといろいろなことがすぐに決まってすごんだよ。」と遊びの目的がはっきりしていき、どんな冒険コースになるんだろうと期待感が高まった。 	
10	10/26	☆保育公開 ※以下詳細				


空白削除

(5) 展開

<ねらい>

○5年生と目的を共有し、話し合いながら一緒に遊びを進めていくことを楽しむ。

○5年生の優しさに触れながら、いろいろな課題に挑戦し、やり遂げた喜びや達成感を味わう。

時間	○活動内容 ☆予想される幼児の姿	教師の援助
9:50	○小学校の体育館に集まる。 ☆5年生に元気よく挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・不安になる幼児もいると思われるため、事前にどんなことをするのか話し合いをし、目的をもたせ安心して活動に取り組めるようにする。 ・5年生が中心に準備を進めていくと思われ、幼児は見ていだけになってしまうことがないよう「何を持ってきたらいいかな?」など、一緒に考えていきながら、準備させていく。 ・5年生が手助けしている場面を捉え「5年生に手伝ってもらってよかったね。」など、嬉しい気持ちに共感する。 ・コースが完成した喜びをグループみんなで味わうことができるように仕上がり認めていく。
10:00	○グループに別れ、準備する。 ☆分担して準備を始める。 ・自分の役割を確認する。 ・自分の冒険コースを試してみる。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・コースが完成した喜びをグループみんなで味わうことができるように仕上がり認めていく。 ・ペアの5年生と一緒に座ることで、親近感をもち一緒に活動することに期待をもたせていく。 ・冒険している雰囲気が出るように「この岩登れるかな?」「ワニに食べられちゃうよ!」など声かけをしていく。
10:20	○一緒に遊ぶの会をする。 (司会5年生) ・冒険コースの紹介 ・本日の流れ(教師) ・先生の話(注意事項)	
10:30	○他のグループの冒険コースに前半と後半に分かれ、ペアで一緒に回る。	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生が手伝ってくれたり、優しく声をかけてくれたりする場面を捉えて、「お兄さんに助けてもらってよかったね。」など、5年生の優しさに気付かせていく。
10:45 交代	☆行きたいコースに一人で勝手に行ってしまう。 ☆他のグループのコースを行ってみることで、出来たことや5年生に手助けしてもらえたことなどを喜ぶ。	
11:00	○片付けを始める。 ☆5年生と一緒に運ぶことを楽しんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「冒険できた?」「どこが難しかった?」など聞いていくことで、困難なことをクリアできたことのほうが、満足感を味わえることに気付けるようにする。
11:20	○終わりの会をする(司会5年生) ・今日の感想をペアに伝え合う。 ・お互いに言われてうれしかったことを発表する。 ・終わりの言葉「ありがとうございました。」 ・園児から5年生にお礼を言う。 さようならの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生と一緒に片付けている姿を認め、励ましていくことで、5年生との活動に喜びを感じられるようにする。 ・全体の中では、なかなか自分の思いを話せない幼児もペアの5年生には話せるように、教師が橋渡しをしていき、思いを引き出していく。 ・感謝の気持ちを込めてお礼が言えるようにする。
11:30	・5年生と握手をして別れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・握手をしたりすることで親近感をもちさせていく。

2 事後活動

交流10回目（冒険ごっこ）を終えた後、クラスで活動の振り返りを行った。初めて5年生と一緒にコースを回り楽しかったことやできない所を助けてもらい、嬉しかったことを一人一人が発表していた。後日、年少組にやらせたいという思いから、今度は自分たちが年少組に優しく教えたり、助けてあげたりする姿が見られた。

3 幼小教諭による事前・事後の検討会

(1) 事前検討会

- ・年度当初に、交流のねらいと交流活動の計画を話し合った。
- ・交流活動前に、幼児と児童にそれぞれのねらいを確認し、活動の流れや援助の方法を共有した。また、交流後には5年生から感想を聞き、次の交流に活かしていくようにした。

(2) 事後検討会

- ・交流後、幼児と5年生それぞれに感想を聞き、次の交流活動に活かせるようにした。
- ・公開保育当日には、幼稚園教諭と小学校教諭、指導主事を交えて協議会を行った。

[協議会で出た成果と課題]

- ① 冒険ごっこだけでなく他の交流から行ってきたことで、お互いに気持ちが打ち解け、安心感をもって一緒に作り上げたのはよかった。
- ② 交流を始めた頃は、幼児も児童も個人差があり自然に接することが難しい場面も見られたが、ペアを決めて交流を進めていったことで、繋がりを深めることができた。
- ③ 一緒に作り上げていくことで、自分たちでルールを決め、それを守ろうとする気持ちが伝わってきた。
- ④ 幼児ができないことや困っている場面を5年生が励ましたり、出来るように設定を変えたりするなどの心遣いが見られた。

4 交流活動後の事例

<事例> 「年少さんにやらせてあげようよ。」 ～年少とのかかわりの中で～

(11月中旬 ミニ冒険コースを作る)

冒険ごっこの楽しさを思い出し、「またお兄さんたちとやりたいな。」という思いがあったが「年少さんにやらせてあげようよ。」という意見が出て準備を始める。小学校の体育館のように広い場所ではなく遊具も少ないが、自分たちで設定を工夫し、年少組が楽しめるように作り上げていった。「この上に乗って投げるんだよ。」と手を持って支えてあげたり、「気をつけて渡ってね。ワニに食べられちゃうよ。」と声をかけたりしながら、実際に5年生からしてもらったことと同じようにやろうとする場面が多く見られ、優しく接する姿が見られた。



1行挿入

5 保護者アンケートの結果

毎回の交流活動後に、家庭での活動後の幼児の様子や、保護者の交流活動に対する考えなどについてアンケートを実施した。(記述回答については、主な意見を抜粋した。)

★5年生との交流活動後、お子さんはご家庭で交流についてどんなお話をしましたか。

- ・その日に5年生としたことや5年生に優しくしてもらったことなど。
- ・「一緒に遊べて楽しかった。」「5年生はすごいんだよ。」「また5年生に会いたい。」など。

★交流活動を行い、お子さんが変わったと思われることはありますか。

- ・近所に小学生がいても今までは一緒に遊ぼうとしなかったが、自分から「遊びたい。」と言いにいき自然にとけ込むことが出来るようになった。
- ・5年生と接してわからないことを優しく教えてもらったり、面倒をみてもらったりしたことで、家でも「僕はお兄ちゃんだから。」と譲ったり、我慢したりすることが度々あり、お兄ちゃんという自覚がでてきた。
- ・小学校に通うことが楽しみになったようです。
- ・交流後は、「お兄さんお姉さんみたいになりたい。」と話している。

★その他、公開保育の感想など

- ・小学校入学前に上級生と接する機会があり、小学校入学の不安が少しでも減って良かった。
- ・入学後1年生と6年生がペアとなる5年生と交流をもてたことは、とても良かった。
- ・5年生が年長を気遣っている姿や年長児が5年生に甘えながらも一生懸命活動している姿が微笑ましかった。
- ・5年生と幼稚園児がとても慣れていて、5年生を信頼し一緒に物を作ったり、遊んだりしている様子が見られた。
- ・5年生の指示がわかりやすいようで、しっかり言われたことをやっている姿が見られて良かった。
- ・5年生の優しく接してくれる姿を見ることができて、来年子どもたちが1年生になった時、頼もしいと思った。
- ・発表する子どもたちの姿を見て成長を感じた。

1行挿入

6 成果と課題

(1) 成果

- ・不安な気持ちでいた幼児も5年生と一緒に作り上げていく経験をしていくことで、安心感をもつようになり、今まであまり会話をしていなかった幼児も自分から話しかけたり、笑顔が見られたりするなど、今までに見られない表情をする幼児の姿が見られた。
- ・5年生に優しくされたことや一緒に作り上げる喜びの中で、自分の思いに寄り添い認めてくれる5年生の姿勢を感じることができ、友達や年少児に対して思いやりの気持ちをもてるようになった。
- ・自分だけではできないことも、5年生に教えてもらいながら自分の力を発揮することができたことで、喜びや達成感を味わい、自信に繋がった。
- ・5年生に優しくしてもらったことで、家庭でも優しさや思いやりの気持ちが育ったと感ずることができた。
- ・保護者が参観したことで、5年生や友達と協同的な活動を通して思いやりの心をはぐくむことなど交流活動の重要性を理解してもらうことができた。

(2) 課題

- ・思いやりの心を育むには、相手を尊重し認めていくことで優しさが相手に伝わると思われる。しかし、そのことは数回のかかわりだけでは、成し得ないと考えられるため、今後も小学生だけでなく自分より年下の年少児や未就園児と継続してかかわる中で、優しく接したり、教えてあげたりする経験を積み重ねていくことが必要である。
- ・今後も一人一人が、周りの人から受け入れられているという安心感を土台に、気持ちが触れ合う体験の積み重ねを通して思いやりの心を育めるようにしていくことが大切である。